認知症高齢者を対象とした介護老人保健施設実習における 教員の指導内容の検討

一実習記録上の学生へのコメント内容の分析から一

長井 栄子¹⁾ · 井上 映子¹⁾

【要旨】

認知症高齢者が増加している今日、老年看護学教育の担う役割は大きい。しかし、高齢者施設での実習 指導は教員が巡回して行うことが多く、教員が直接的に関与できなかった事象について学生の実習記録を もとに指導を行うことも多い。そこで、認知症高齢者を対象とする介護老人保健施設での実習において、 教員が行った実習記録へのコメント内容を明らかにし、実習目的との照合から指導上の課題を見出すこと を目的に、教員のコメント分析を質的帰納的研究方法により行った。その結果、教員のコメントは〈承認〉 よりも〈促し〉の内容が多く、特に3日間の実習期間のうち実習2日目に最大数となっていた。また教員 は知識だけでなく、認知症高齢者の表わすサインを手掛りに対象を理解し、認知症高齢者の持つ力を活か せるよう施設の特徴に応じたケア実践への指導を行っていた。しかしながら、実習目標の項目にある加齢 に伴う心身の変化、家族支援や多職種連携、社会資源の活用についてはコメント数が少なかった。今後は、 今回コメント数が少なかった事項を意図的に指導できるよう、指導要綱作成や実習記録様式の改善を行っ ていく必要がある。

キーワード:認知症高齢者、介護老人保健施設、指導内容、臨地実習記録

I. 研究目的

我が国の現在(2012年)の認知症高齢者(日常生活自立度II以上)人口は305万人とされ、この10年間で倍増し今後ますます増加すると考えられている(厚生労働省)。認知症ケアはトム・キットウッド(2006)によるパーソンセンタードケアの理念を基本とし、認知症の対象者の個性・生活・意向を尊重し、対象者が自身の力を発揮できるよう、エンパワメントを基盤とした支援をする必要性が唱えられている。一方、先行研究(松田ら,2006)においては、認知症の対象者を支える専門職のマイナス感情の存在やケアの達成感のなさなどの報告がある。これからの少子社会のなかで看護のマンパワーを維持しつつ質を向上していくためには、認知症高齢者のケアの奥深さの理解を促進する看護基礎教育の役割が重要である。

看護系大学における高齢者を対象とした実習は、介護老人保健施設等の高齢者施設や急性期病院の

¹⁾ 城西国際大学看護学部看護学科

場で行っている。高齢者施設での実習指導は教員が巡回して行うことが多く、教員が直接的に関与できなかった事象について学生の実習記録をもとに指導を行うことも多い。また、実習記録に対する教員のコメントは後々まで残り、学生が見返すことができるため、学生への影響力も強いと考える。そこで、今回、認知症高齢者を対象とする介護老人保健施設での実習において、教員が行った実習記録へのコメント内容を明らかにし、実習目的との照合から指導上の課題を見出すこととした。

Ⅱ. 研究方法

1. 研究対象

2009 年 5~7 月の期間中に介護老人保健施設実習を行った A 大学看護学部 3 年次生 89 名のうち、同意の得られた 75 名の実習記録に記載された 5 名の教員のコメント内容を対象とした。

2. データ収集期間および方法

データ収集期間は、当該実習とその評価が終了した 2009 年 9 月とした。方法は、実習記録に記載された教員のコメントを意味内容ごとに文脈単位として区切り、実習日ごとにまとめ、データとした。

3. 分析方法

質的帰納的研究方法により分析を行った。データのうち教員のコメントを実習日ごとに意味内容の 類似性に従い分類し、分類が表す内容をサブカテゴリとして命名し、さらにサブカテゴリを意味内容 の類似性に従い統合し、分類が表す内容をカテゴリとして命名した。

分析過程は、研究者間で議論を重ね、妥当性の確保に努めた。なお、本論文中には、カテゴリを【】、サブカテゴリを ""で示した。

4. 倫理的配慮

対象とした実習記録については、当該学生に本研究の主旨と成績評価には影響しない旨を口頭により説明し、研究協力の承諾を得た。また、コメントを記載した教員についても本研究の主旨について口頭で説明し、研究協力の承諾を得た。データは通し番号に置き換え操作したほか、管理徹底し個人情報の保護に努めた。

Ⅲ. 実習までの準備および実習状況

1. 学生の実習準備状況と実習スケジュールの概要

実習に先立ち学生は、認知症高齢者へのケアやコミュニケーションについて学内講義を受け、モデルとなるケア実践ビデオを視聴し、また講義全般として高齢者のもてる力の発揮(エンパワメント)の重要性について教授されていた。高齢者を対象とした実習は、介護老人保健施設実習3日間と急性期病院実習6日間、学内実習1日を組み合わせた2週間の実習であった。実習目的は「様々な健康レベルの老年期にある人とその家族の生活について知り、加齢・疾病及び障害が身体・心理・社会面に及ぼす影響を理解し、老年看護の実際について学ぶ」であったが、介護老人保健施設実習の実習目標に

は「加齢による心身の変化、疾病や障害の高齢者への影響、認知症高齢者のコミュニケーションの特性や家族支援・倫理的配慮、生活史・価値観・自立度に応じた援助、多職種連携、社会資源の活用」の項目が挙げられていた。実習準備として学生には、介護老人保健施設で導入しているユニットケアに関するレポートが課せられていた。介護老人保健施設実習は受け持ち入居者をもたず、主にコミュニケーションやアクティヴィティ・ケアを行い、2~3名の入居者を中心に関わる体制をとっていた。また、実習初日の半日は施設内でのオリエンテーションと見学を実施していた。

2. 介護老人保健施設実習における施設のケア状況と教員の指導体制

実習施設ではユニットケアを実施し、入居者は個別に自室を有し、 $10\sim11$ 名の入居者が1つのリビングで過ごしていた。1つのユニットには介護職員が $1\sim2$ 名がおり、学生は $2\sim3$ 名で実習していた。 また看護師は施設内にある6つのユニット全体を巡回していた。教員は5名が日毎に交替し各実習日には2名の教員が巡回指導し、日々1時間程度のカンファレンスを実施していた。

Ⅳ. 結果

1. 教員のコメント内容

実習記録に記載された教員のコメントを意味内容ごとに区切り、類似性に従い分類・統合したところ、コメント内容は学生の更なる学習の〈促し〉を行うコメントと学生の記録内容を〈承認〉するコメントに分類された。以下、教員の〈促し〉コメントと〈承認〉コメント別に分析内容を示す。

2. 教員の〈促し〉コメントの内容

教員の〈促し〉コメントは、実習 1 日目に【認知症高齢者の全人的理解の促し】【適切なケア実践の促し】【基礎学習や基本情報理解の促し】【認知症高齢者の表現を助けるケアの促し】【施設における対象者・看護師・ケアの特徴理解の促し】【認知症高齢者のもてる力の発揮に向けたケアの促し】【ケアチームの一員としての行動の促し】【認知症高齢者への倫理的配慮の促し】【認知症高齢者の安全を守るケアの促し】【コミュニケーション障害のある高齢者に対するケア方法の提案】の 10 カテゴリに分類できた(表 1)。実習 2 日目は【学生の安全確保に向けた助言】が加わった 11 カテゴリ(表 2)、実習 3 日目は【生活リズムを整えるケアの促し】【加齢に伴う高齢者の心身の特徴の理解の促し】が加わり、さらに【コミュニケーション障害のある高齢者に対するケア方法の提案】【学生の安全確保に向けた助言】の 2 つのカテゴリが外れた 11 カテゴリに分類できた(表 3)。

(1)実習1日目の教員の〈促し〉コメント内容

実習初日に教員は【認知症高齢者の全人的理解の促し】として"認知症高齢者の言動の意味の理解の促し"や"短絡的な対象理解の修正"、"認知症高齢者のサインへの気づきの促し"、"認知症高齢者の生活背景の理解の促し"、"総合的な対象理解の促し"を行い、【適切なケア実践の促し】として"ケアの具体性の促し"、"詳細な記録によるケア評価の促し"、"目的のあるケアへの促し"、"ケアの現実性の促し"、"ケアの適切性の促し"、"ケアの個別性の促し"、"ケア実践の促し"をしていた。一方、【基礎学習や基本情報理解の促し】として"対象の背景の不足情報の確認"、"専門用語の

理解の促し"、"認知症の症状理解の促し"を行うほか、【認知症高齢者の表現を助けるケアの促し】 として"認知症高齢者へのコミュニケーション方法の提案"、"認知症高齢者が表現しにくい症状の 早期発見に向けた観察の促し"、"認知症高齢者への予測に基づいたケアの促し"を図っていた。ま た【施設における対象者・看護師・ケアの特徴理解の促し】のため"施設における看護師の役割理 解の促し"、"集団の中での対象者の役割を活かしたケアの促し"、"集団生活における個別性のある 牛活確保の促し、"ユニットケアの特徴を活かしたケアの促し"を行い、【認知症高齢者のもてる力 の発揮に向けたケアの促し】のため"認知症高齢者へのレクリエーションの促し"、"認知症高齢者 の嗜好に配慮したケアの促し"、"認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し"、"対象者の強みを 活かしたケアの促し"を図っていた。そして【ケアチームの一員としての行動の促し】を図るため "スタッフ情報を活用したケアの促し"、"スタッフへの情報提供についての確認"、"スタッフのモ デル行動からの学習の促し"、"学生同士の協力体制の促し"を行い、【認知症高齢者への倫理的配慮 の促し】に向け"認知症高齢者への倫理的態度の確認"、"認知症高齢者への選択的な情報聴取の促 し"をしていた。さらに【認知症高齢者の安全を守るケアの促し】のため"認知症高齢者の転倒リ スクの理解の促しと注意喚起"、"認知症高齢者への転倒防止方法の提案"、"認知症高齢者の栄養管 理の重要性理解の促し"を行うほか、【コミュニケーション障害のある高齢者に対するケア方法の提 案】として"視覚障害のある高齢者に対するケア方法の提案"を行っていた。

(2)実習2日目の教員の〈促し〉コメント内容

実習 2 日目に教員は【基礎学習や基本情報理解の促し】として新たに、"現象に対する原因探求への促し"、"既往疾患やデータに基づく観察の促し"、"認知症の周辺症状に対するケア方法の提案"、"介護保険の理解の促し"、"既往疾患の理解の促し"、"学習体験による気づきの一般化"を促していた。【認知症高齢者への倫理的配慮の促し】では"認知症高齢者への選択的な情報聴取の促し"に代わり"対象者自身からの情報収集の促し"を図り、【認知症高齢者の安全を守るケアの促し】では新たに、"長時間同一姿勢のリスクの理解の促し"、"ポジショニングの配慮の促し"、"脱水予防の配慮の促し"を図っていた。【コミュニケーション障害のある高齢者に対するケア方法の提案】では"視覚障害のある高齢者に対するケア方法の提案"に代わり"視覚障害のある高齢者の生活への影響の理解の促し"を図ったほか、新たに"失語のある高齢者に対するコミュニケーション方法の工夫の促し"を図っていた。【学生の安全確保に向けた助言】では学生の身の安全を守るために"対象者との距離感への注意喚起"を図っていた。

また【適切なケア実践の促し】【施設における対象者・看護師・ケアの特徴理解の促し】【認知症 高齢者のもてる力の発揮に向けたケアの促し】【ケアチームの一員としての行動の促し】【認知症高 齢者の表現を助けるケアの促し】【認知症高齢者の全人的理解の促し】では、実習 1 日目のサブカ テゴリとほぼ同様の促しをしていた。

(3)実習3日目の教員の〈促し〉コメント内容

実習 3 日目に教員は【基礎学習や基本情報理解の促し】として新たに、"学習体験による気づき

の病棟実習での活用の促し"をしていた。また【認知症高齢者の全人的理解の促し】は新たに"高齢者にとっての家族の意味の理解の促し"が加わり、【施設における対象者・看護師・ケアの特徴理解の促し】では新たに"医療・福祉チームの連携理解の促し"のほか、"施設における課題理解の促し"、"集団生活におけるトラブル調整理解の促し"、"集団全体に対する看護の視点理解の促し"が加わった。【認知症高齢者への倫理的配慮の促し】では新たに、"個人情報保護に向けた記録方法の訂正"が加わった。【認知症高齢者の安全を守るケアの促し】では新たに、"認知症高齢者への誤嚥リスクへの注意喚起"が加わった。そのほか、新たに【生活リズムを整えるケアの促し】【加齢に伴う高齢者の心身の特徴の理解の促し】をしていた。【認知症高齢者のもてる力の発揮に向けたケアの促し】【適切なケア実践の促し】【認知症高齢者の表現を助けるケアの促し】【ケアチームの一員としての行動の促し】は、実習 2 日目のサブカテゴリと同様の促しをしていた。

3. 教員の〈承認〉コメントの内容

教員の〈承認〉コメントは、実習 1 日目に【認知症高齢者の表現を助けるケアに対する承認】【認知症高齢者のもてる力の発揮に向けたケアに対する承認】【認知症高齢者の安全を守るケアに対する承認】【認知症高齢者の全人的理解に対する承認】【施設の特徴を活かしたケアに対する承認】【コミュニケーション障害のある高齢者へのケア方法に対する承認】【認知症高齢者への倫理的態度に対する承認】の7カテゴリに分類できた(表4)。実習2日目は実習1日目のカテゴリから【認知症高齢者への倫理的態度に対する承認】が外れ、【施設の特徴を活かしたケアに対する承認】は【施設の特徴に合わせたケアに対する承認】と名称を変え、さらに【適切なケア実践に対する承認】【学習姿勢に対する承認】が加わった8カテゴリに分類できた(表5)。実習3日目は、実習2日目のカテゴリに【生活リズムを整えるケアへの承認】【加齢に伴う高齢者の心身の特徴理解に対する承認】が加わった10カテゴリに分類できた(表6)。

(1)実習1日目の教員の〈承認〉コメント内容

実習初日に教員は"認知症高齢者へのコミュニケーション方法の適切さに対する承認"、"認知症高齢者への予測に基づくケアに対する承認"といった【認知症高齢者の表現を助けるケアに対する承認"、"認知症高齢者の嗜好に配慮したケアに対する承認"、"認知症高齢者の嗜好に配慮したケアに対する承認"といった【認知症高齢者のもてる力の発揮に向けたケアに対する承認】をしていた。また【認知症高齢者の安全を守るケアに対する承認】として"認知症高齢者の安全確保に向けたケアに対する承認"、"認知症高齢者の転倒リスクを踏まえたケアに対する承認"をしていた。【認知症高齢者の全人的理解に対する承認】としては"総合的な対象理解に対する承認"、"認知症高齢者のサインの気づきに対する承認"を行い、【施設の特徴を活かしたケアに対する承認】として"入居者同士の交流促進に向けたケアに対する承認"をしていた。さらに【コミュニケーション障害のある高齢者へのケア方法に対する承認】では"視覚障害のある高齢者へのケア方法に対する承認】では"視覚障害のある高齢者へのケア方法に対する承認"をしていた。そのほか、【認知症高齢者への倫理的態度に対する承認】をしていた。

(2) 実習2日目の教員の〈承認〉コメント内容

実習2日目に教員は【認知症高齢者のもてる力の発揮に向けたケアに対する承認】として新たに、"対象者の強みを活かしたケアに対する承認"、"認知症高齢者への適切な食事援助に対する承認"、"認知症高齢者へのレクリエーションの効果理解に対する承認"、"疼痛緩和のケアに対する承認"をしていた。また【認知症高齢者の表現を助けるケアに対する承認】では新たに、"認知症高齢者へのコミュニケーション方法の適切さに対する承認"を行い、【施設の特徴に合わせたケアに対する承認】では新たに、"施設における看護の視点の理解に対する承認"、"集団生活における個別性のある生活確保に対する承認"、"集団全体に対する承認】では新たに、"失語のある高齢者へのコミュニケーション障害のある高齢者へのケア方法に対する承認】では新たに、"失語のある高齢者へのコミュニケーション方法に対する承認"を行い、【認知症高齢者の全人的理解に対する承認】では新たに、"認知症高齢者の言動の意味の理解に対する承認"をしていた。【適切なケア実践に対する承認】では"個別性のあるケアに対する承認"、"ケアの実践化に対する承認"、"ケアの具体化に対する承認"を行い、【学習姿勢に対する承認】では"現象に対する承認"、"ケアの具体化に対する承認"を行い、【学習姿勢に対する承認】では"現象に対する原因探求姿勢に対する承認"をしていた。また【認知症高齢者の安全を守るケアに対する承認】では実習1日目のサブカテゴリと同様の承認をしていた。

(3) 実習 3 日目の教員の〈承認〉 コメント内容

実習3日目に教員は【認知症高齢者のもてる力の発揮に向けたケアに対する承認】として新たに、 "認知症高齢者の嗜好に配慮したケアに対する承認"をしていた。また【適切なケア実践に対する承認】として新たに、"ケア評価の姿勢に対する承認"、"目的のあるケアに対する承認"、"適切なケアに対する承認"を行い、【施設の特徴に合わせたケアに対する承認】として新たに"施設環境への配慮に対する承認"、"集団生活におけるトラブル調整理解に対する承認"をしていた。さらに【認知症高齢者の全人的理解に対する承認】として新たに"対象の多様性の理解に対する承認"を行い、【認知症高齢者の安全を守るケアに対する承認】として新たに"認知症高齢者への転倒防止方法理解に対する承認"、"認知症高齢者の安全確保の必要性理解に対する承認"をしていた。【学習姿勢に対する承認】では新たに"既往疾患やデータに基づく観察に対する承認"をしていた。そのほか、【生活リズムを整えるケアへの承認】や【加齢に伴う高齢者の心身の特徴理解に対する承認】をしていた。

Ⅴ. 考 察

1. 介護老人保健施設実習における実習記録に対する教員の指導内容

介護老人保健施設実習における学生の実習記録に対して教員が記載したコメントは、〈承認〉コメントよりも〈促し〉コメントが多かった。これは知識との関連づけのほか、援助の考え方や方法の提案や修正、強化等の目的があるためである。したがって、〈承認〉コメントを述べた後でも学生の気づきや実践に看護としての意味づけを強化するためにも〈促し〉コメントを行っていると考えられた。

《促し》コメントのうち【認知症高齢者の全人的理解の促し】【適切なケア実践の促し】【基礎学習や基本情報理解の促し】【認知症高齢者の表現を助けるケアの促し】【施設における対象者・看護師・ケアの特徴理解の促し】【認知症高齢者のもてる力の発揮に向けたケアの促し】のカテゴリは、実習初日から3日目まで一貫しており、教員は知識だけでなく、認知症高齢者の表わすサインを手掛りに対象を理解し、認知症高齢者の持つ力を活かせるよう施設の特徴に応じたケア実践への指導を行っていたと言える。老年看護実習指導の手引き(種池ら,2000)には、老年看護実習指導者の役割として「看護理論の実践を科学的に方向づける。看護援助の理由・根拠を問いかけながら、学生が既習の知識・技術・態度を統合し、高齢者とその家族に対して個別性を踏まえた援助の方法を見出し、実践できるよう指導する」ことが挙げられている。今回得られた教員の〈促し〉コメントを見ると、学生が実習で行った実践を学内講義で一貫して教授したエンパワメント理論と結びつけ、かつ不足した基礎知識を補足または自己学習を促進するという働きかけであり、老年看護実習指導者の役割機能に適った働きかけであった。

一方、3日間の実習期間中の文脈単位数の変化として〈促し〉コメントは実習2日目に最大となっていた。これは実習3日目で介護老人保健施設での認知症高齢者ケア実践は終了してしまうため、学生が自身のアイデアをもとにケア実践を行ったうえでの記録で、かつ施設実習中のケア実践に反映できる可能性がある実習2日目の記録に〈促し〉コメントが増加したものと考えられ、ケア実践を重視し実習効果を考えて意図的にコメントを行っていると考えられた。

また、〈承認〉コメントの文脈単位数は実習初日から 3 日目にかけて徐々に増加していた。教員は 実習初日から【認知症高齢者の表現を助けるケアに対する承認】【認知症高齢者のもてる力の発揮に向 けたケアに対する承認】のコメントを行っており、学生は比較的に実習早期から認知症高齢者のニー ズを捉えようと努め、その人のもつ力を活かそうとしていることが窺えた。これは、学内講義におい て高齢者看護におけるエンパワメントの重要性を繰り返し教授し、認知症高齢者へのケアやコミュニ ケーションについてポイントを押さえ、視覚に訴えるケア実践ビデオ視聴を導入していたこと、課題 提示による自己学習促進から、認知症高齢者ケアの基本的態度が養われていたからだと考えられる。

安藤ら(2007)は、介護老人保健施設の認知症病棟で看護過程を展開する2週間の実習記録の内容分析において、「「心身機能」「身体機能」に比べ、その人らしい生活を支援する「活動と参加」「環境因子」についての記述が少なく重要性の認識が浅いことが分かった」としている。これは本研究の結果と全く異なっており、受け持ち入居者を通して看護過程を展開する実習体制と本研究で取り上げた受け持ち入居者を持たずコミュニケーションやアクティヴィティ・ケアを中心に行う実習体制との学びの違いを示しているとも考えられる。高齢者を対象とした実習の実習目的のうち、介護老人保健施設実習での学習課題についてより焦点化し、目的に合わせた学習活動が行えるよう実習体制を整えることが重要である。また、実習終盤にかけて【適切なケア実践に対する承認】【施設の特徴に合わせたケアに対する承認】が増えていた。これは指導内容が、認知症高齢者の対象理解から、ケア実践と評価、施設(集団生活)の中での看護師の役割へ、実習経過とともに承認する内容の幅が広がっていったことを示していると言える。

2. 実習目的との照合による指導上の課題

先述したように、高齢者を対象とした実習の実習目的は「様々な健康レベルの老年期にある人とその家族の生活について知り、加齢・疾病及び障害が身体・心理・社会面に及ぼす影響を理解し、老年看護の実際について学ぶ」と非常に広い。この実習目的を具体化した介護老人保健施設実習の実習目標は「加齢による心身の変化、疾病や障害の高齢者への影響、認知症高齢者のコミュニケーションの特性や家族支援・倫理的配慮、生活史・価値観・自立度に応じた援助、多職種連携、社会資源の活用」の理解であり、老年看護学の一般的な学習項目である(正木,2007)。しかしながら、これらの項目は多岐に渡り、介護老人保健施設実習3日間と急性期病院実習6日間、学内実習1日を組み合わせた2週間の中で意図的に実習場面を教材化しなければ達成できない目標とも言える。教員の〈促し〉コメントのカテゴリを見ると、認知症高齢者の対象理解や倫理的配慮は実習初日から見られる一方、加齢による心身の変化、家族支援や多職種連携、社会資源の活用は実習最終日になって少数のコメントが得られた程度である。教員が実習記録に行うコメントは学生の記述に合わせて行っているため、コメント数が少なかった項目は学生の気づきにくい視点であったと受け止め、今後の指導に活かしていく必要がある。

一方、他大学の実習例を見ると、松波ら(2008)は"持てる力"の活用を強調した老年看護学実習に実習目的を限定し、学びを深めようとしている。高齢者を対象とした実習全体のうち、介護老人保健施設実習で特に焦点を置く学習内容を厳選することも、学習の深まりのためには重要である。

実習記録への教員のコメント内容は学生の気づきや体験に基づく学生の記載内容に合わせて流動的となる。また、学生が気づけないほか、気づいても記録していない場合や体験していないために記録できない場合もある。したがって、短期間の実習の中で学習の順序性や進度を考慮しつつも見落としなく、実習目標を達成できるよう、今回不足していた〈促し〉コメントを適切な時期に行えるような指導要綱の作成や学生自身が学習進度に合わせて必要項目を学習できる記録様式の改善を行っていきたいと考える。

Ⅵ. 結 論

認知症高齢者を対象とする介護老人保健施設実習における教員の実習記録へのコメントは〈促し〉と〈承認〉に分類された。実習目標と照合したところ、認知症高齢者の対象理解については、比較的早期から〈促し〉〈承認〉ともにコメントが多くみられた。一方、加齢による心身の変化、家族支援や多職種連携、社会資源の活用はコメント数が少なかった。今後は介護老人保健施設実習で学習できる内容からより焦点化した実習目標を掲げるとともに、今回コメント数が少なかった事項を意図的に指導できるよう、指導要綱作成や実習記録様式の改善を行っていく必要がある。

Ⅷ. 本研究の限界と今後の課題

本研究は学生の実習記録に対する教員のコメント内容を対象としており、学生の学習内容そのものを対象としていないため、得られた結果は教員の指導内容に留まっている。今後は教員の意図的指導方法に対する学習効果として学生の記録も合わせた分析を行っていきたい。

謝辞

本研究に実習記録のコメント内容の提供という形でご協力いただきました学生の皆様と、コメント内容の分析に快く承諾いただきました教員の皆様に感謝申し上げます。

文 献

安藤邑惠,小木曽加奈子(2007). 老年看護学臨地実習記録の内容分析と課題—ICF の視点から考える看護の展開—. 第 38 回日本看護学会論文集—看護教育—, 278-280.

厚生労働省、報道発表資料、認知症高齢者数について、

http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002iau1-att/2r9852000002iavi.pdf, August 31, 2012.

種池礼子, 岡山寧子(2000). 老年看護実習指導の手引き(p.7). メヂカルフレンド社.

トム・キットウッド・高橋誠一訳(2006). 認知症のパーソンセンタードケア 新しいケアの文化へ. 筒井書房.

正木治惠(2007). 老年実習ガイドパーフェクト臨床実習ガイド--ライフステージに沿った看護技術と看護の展開. 照林社.

松田千登勢,長畑多代,上野昌江,郷良淳子(2006). 認知症高齢者をケアする看護師の感情. 大阪府立大学看護学部紀要,12(1),85-91.

松波美紀, 箕浦とき子, 温水理佳, 吉川美保(2008). 高齢患者の"持てる力"の活用を強調した老年看護学実習の検討—実習記録の分析から—. 老年看護学, 12(2), 60-67.

カテゴリ(文脈単位数の小計)	サブカテゴリ	記述内容例	文脈 単位数
認知症高齢者の全人的理解の促し(43)	認知症高齢者の言動の意味の理解の促し	なぜ歩こうとしているのか、その意味を考えてみて下さい。そ の人なりに必ず理由はありますよ。	26
	短絡的な対象理解の修正	全盲でも自立した生活を送っている人はいますので、なぜB さんが常に介護が必要なのか、もう一度考えてみましょう。	7
	認知症高齢者のサインへの気づきの促し	ちょっとしたサインを見逃さないために、「何か気になる」という感覚を大切にしておくことが求められます。	4
	認知症高齢者の生活背景の理解の促し	ADLの状況や疾患のこともそうですが、生活背景、価値観な	4
	総合的な対象理解の促し	ども考えるべきでしょう。 この1つの疾患に限らず、DM・HT・大腸ボリーブそして認知 症ーと、その方全体を含めて症状を考えた方がよいのでは ないでしょうか?	2
	ケアの具体性の促し	ないでしょうか? 具体的にどういう注意が必要か、確認しておきましょう。	9
	詳細な記録によるケア評価の促し	どんな話の内容か、もう少し詳しく記載することで援助への ヒントも見い出せるかもしれません。	9
適切なケア実践の促し	目的のあるケアへの促し	レクリエーションでも身体活動につながるものもあるので、目 的をふまえていろいろなものに挑戦してみてくださいね。	7
(36)	ケアの現実性の促し	施設の中で出来ることを考えて見ましょう。	4
	ケアの適切性の促し	編物は細かくて難しすぎるかもしれないので、加齢による変 化もふまえてレクを考えてみてくださいね。	3
	ケアの個別性の促し	ケースごとに対応を考えましょう。	2
	ケア実践の促し	次から実践してみてください。	2
#### W 77 4 # 1 ##### #7 - /9 4	対象の背景の不足情報の確認	認知症レベル、疾患、治療、処置、生活暦なども記載してお くと理解しやすいと思います。	24
基礎学習や基本情報理解の促し (35)	専門用語の理解の促し	正式名称を記入すること、どういう意味かわかりましたか?	7
(66)	認知症の症状理解の促し	帰宅欲求にはどのような対応がよいか、考えてみてくださ い。	4
認知症高齢者の表現を助ける	認知症高齢者へのコミュニケーション方法 の提案	よく聞き取れない場合は、聞き流すことは良くないので、聞き返した方がよいと思います。(きちんと訴えを把握することの方が大切)	10
ケアの促し (21)	認知症高齢者が表現しにくい症状の 早期発見に向けた観察の促し	腰痛の状況によっては時間を決めて直接観察していくことも 大切ですね。	8
	認知症高齢者への予測に基づいたケアの促し	どうして掻いてしまうのか、ある程度、予想してみることも大切です。	3
	施設における看護師の役割理解の促し	看護師はどのような看護の視点が必要か、考えてみてくださ い。	8
施設における対象者・看護師・	集団の中での対象者の役割を活かした ケアの促し	。。 役割意識の再確認ですね。ユニットのグループダイナミクス を生かすというメリットもあります。	4
ケアの特徴理解の促し (17)	集団生活における個別性のある生活確保 の促し	一人で居る時間と一緒に生活している人と過ごす時間とが	3
	ユニットケアの特徴を活かしたケアの促し	良いバランスを保てるようにしたいですね。 ユニットケアの良い所を最大限に生かしたかかわりを工夫で きるといいですね。	2
	認知症高齢者へのレクリエーションの促し	相づちを変えてみたり、話題転換してみるのもひとつです が、体を動かす方向に誘導するのもひとつだと思います。	6
認知症高齢者のもてる力の発揮	認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し	話題だけでなく生活に楽しみを見い出せるようなさまざまな 取り組みをその方に合わせて提供できるといいですね。	5
に向けたケアの促し (16)	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し	ー日の生活をみて、できるところとそうでないところをみきわ めて下さい。看護として支援が必要なことが見えてくると思い	4
-	対象者の強みを活かしたケアの促し	ます。 強みを生かしたかかわりを考えてみてください。	1
	スタッフ情報を活用したケアの促し	常に関わっている職員は様々な情報をもっているはずです ので、積極的に声をかけ、情報を得ていきましょう。	4
ケアチームの一員としての行動 の促し	スタッフへの情報提供についての確認	スタッフが知っていることが大切ですが、入居者に代わって 相談できましたか?	2
(8)	スタッフのモデル行動からの学習の促し	スタッフの行動、声かけなど、よく観察して参考にすることが	1
-	学生同士の協力体制の促し	あれば自分の学びとしていきましょう。 学生同士よく話し合って計画的にすることも大切ですね。	1
認知症高齢者への倫理的配慮	認知症高齢者への倫理的態度の確認	必ずこちらで行う前にBさんの同意を得て援助を実施していきましょう。	4
の促し(6)	認知症高齢者への選択的な情報聴取の促し	何を知りたくて質問するのか、その知りたいことは本人から 聞かないといけないことなのか、看護としてかかわるうえで 必要な情報とは何か、考えましょう。	2
	認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し	転倒のハイリスク状態ですので一人で実施しないようにして	3
認知症高齢者の安全を守るケア の促し	と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の提案	ください。 歩行状況によっては歩行と赤ちゃん人形を抱くという行為を 一緒にするのは避け、しっかりと座ってから勧めるなどして	1
(5)	認知症高齢者の栄養管理の重要性理解	みてはどうでしょう? 高齢者の栄養はたいへん重要です。	1
コミュニケーション障害のある高齢者に 対するケア方法の提案 (2)	の促し 視覚障害のある高齢者に対するケア方法 の提案	コントラストを強めるような工夫も出来たらいいですね。	2

カテゴリ(文脈単位数の小計)	サブカテゴリ	記述内容例
	対象の背景の不足情報に対する確認	要介護度やADL自立度、HDS-Rは把握できていますか?
	現象に対する原因探求への促し	なぜ食事に関するケアが必要になっているのかを今一度確認しておくと良いでしょう。
	既往疾患やデータに基づく観察の促し	既往歴や現病歴から予測される危険を考え、観察予防し、再発させないような援助を心がけてください。
++ ++ ++ == ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ ++ +	認知症の症状理解の促しと修正	これはBPSDではなく、中核症状の記憶障害ですよ。
基礎学習や基本情報理解の促し (65)	専門用語の理解の促し	正式名称、これがどのくらいのレベルなのか、わかりましたか?
(認知症の周辺症状に対するケア方法の提案	このかたはここのスタッフだと思っているのでは?だとすると何か手伝っ てもらうことでBPSDは軽減するのでは?
	介護保険の理解の促し	介護保険との関連も繋げて考えてみてください。
	既往疾患の理解の促し	この機会に既往疾患であるパーキンソン病の特徴について、少し勉強しておくとよいでしょう。
	学習体験による気づきの一般化	自己の存在を認めてもらうことは人間としての尊厳を守る条件かもしれま
	目的のあるケアへの促し	せん。認知症のかたに限らず、全ての人に感謝の気持ちを示しましょう。 看護としての目標と関連させることができるともっと良いと思います。
	ケアの評価の促し	実践してみてどうだったか振り返ってみてください。
	ケアの適切性の促し	気をまざらすことで問題(不安や痛み)は解決するのかということを、十分
適切なケア実践の促し		考えてみて下さい。
(48)	ケアの具体性の促し	ではどのような対応がいいでしょう? いつから口腔ケアをしていないのか確認して是非ケアを実践してみて下さ
	ケア実践の促し	い。
	ケアの個別性の促し	転倒しないよう見守る程度でいい時とそうでない時の区別があると思います。
	ケアの現実性の促し	継続できるのでいいですね、時間はいつ頃がいいでしょう?
認知症高齢者の表現を助ける	認知症高齢者へのコミュニケーション方法の提案	その昔話の体験をまとめるような聴き方をしてみて下さい。
ケアの促し (27)	認知症高齢者が表現しにくい症状の早期発見 に向けた観察の促し	認知症の人は、自ら症状を訴えられない人もいますので、観察とアセスメント力が必要とされますよ。
(21)	認知症高齢者への予測に基づいたケアの	気分不快がどこからきているのか、本当に気分不快だけなのか、必ずす
	集団生活における個別性のある生活確保	ぐにアセスメントすること。 急に集団レクに誘うよりは1対1でレクをしながら徐々に集団の和へお連れ
施設における対象者・看護師・	の促し	するといいかもしれませんよ。 看護職としてはユニットケアにいる利用者さんへどのような援助が必要だ
ケアの特徴理解の促し (15)	ユニットケアの特徴を活かしたケアの促し	有護職としてはユーットグアにいる利用有さんへとのような援助が必要に と思いますか?
	施設における看護師の役割理解の促し	看護の視点からこの現象を見たらもっと別の関わりが必要では?
	認知症高齢者の言動の意味の理解の促し	"分からないこと"をはじめる怖さを汲み取って、"一緒"に作り上げてみてください。
認知症高齢者の全人的理解の	認知症高齢者のサインへの気づきの促し	タイミングよくご本人の排泄の希望(サイン)をとらえ、誘導することによって失禁や急な行動による転倒を防ぐことができますね。
促し (14)	認知症高齢者の生活背景の理解の促し	お掃除はこのかたにとっての習慣や役割意識をもてる行為なのでしょうか?
(14)	短絡的な対象理解の修正	泣き出すこと=不安でいいのでしょうかね?
	総合的な対象理解の促し	看護としてかかわる場合、安全面は大切ですが、それ以外の側面につい
	対象者の強みを活かしたケアの促し	てもアセスメントしてみましょう。 この強みを日常生活で活かすとしたらどのようにすればいいでしょうか
河如左方松老のナイスカの発揮	認知症高齢者へのレクリエーションの効果の理解	ね?
認知症高齢者のもてる力の発揮 に向けたケアの促し		白好にこのにこれは田が出せれてことがことの主味としたでせん
に向けたケアの促し	の促し	自然にこのような成果が生まれることがレクの素晴らしさですね。 できていること できないこと しょうとしていること それぞれについてきち
に向けたケアの促し	の促し 認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。
に向けたケアの促し (13)		できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もありますよ。
に向けたケアの促し (13) 認知症高齢者への倫理的配慮	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。
に向けたケアの促し (13) 認知症高齢者への倫理的配慮 の促し	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もあります よ。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善す
に向けたケアの促し (13) 認知症高齢者への倫理的配慮 の促し	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し 上注意喚起	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もありますよ。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。
に向けたケアの促し (13) 認知症高齢者への倫理的配慮 の促し (12)	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もあります。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。
に向けたケアの促し(13) 認知症高齢者への倫理的配慮の促し(12) 認知症高齢者の安全を守るケアの促し	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し 上注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もあります。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。 過去に車イスから転落したことがある場合は、特に要注意です。 このかたの居室環境や夜間照明はどのようになっているのでしょう? 車椅子での長期座位保持のリスクを一度考えてみてください。
に向けたケアの促し(13) 認知症高齢者への倫理的配慮の促し(12) 認知症高齢者の安全を守るケアの促し	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の 促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もあります。 。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。 過去に車イスから転落したことがある場合は、特に要注意です。 このかたの居室環境や夜間照明はどのようになっているのでしょう? 車椅子での長期座位保持のリスクを一度考えてみてください。 下肢のむくみやしびれ感への対策にポジショニングの資料を見るといいで
に向けたケアの促し(13) 認知症高齢者への倫理的配慮の促し(12) 認知症高齢者の安全を守るケアの促し	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の 促し 長時間同一姿勢のリスクの理解の促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もあります。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。 過去に車イスから転落したことがある場合は、特に要注意です。 このかたの居室環境や夜間照明はどのようになっているのでしょう? 車椅子での長期座位保持のリスクを一度考えてみてください。 下肢のむくみやしびれ感への対策にポジショニングの資料を見るといいでしょう。 お茶の時間は脱水予防にもなりますので、疾患と合わせてin-out量を計
に向けたケアの促し(13) 認知症高齢者への倫理的配慮の促し(12) 認知症高齢者の安全を守るケアの促し(9)	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の 促し 長時間同一姿勢のリスクの理解の促し ポジショニングの配慮の促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もありますよ。 等表間"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。 過去に車イスから転落したことがある場合は、特に要注意です。 このかたの居室環境や夜間照明はどのようになっているのでしょう? 車椅子での長期座位保持のリスクを一度考えてみてください。 下肢のむくみやしびれ感への対策にポジショニングの資料を見るといいでしょう。
に向けたケアの促し (13) 認知症高齢者への倫理的配慮 の促し (12) 認知症高齢者の安全を守るケア の促し (9) ケアチームの一員としての行動	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の 仮し 長時間同一姿勢のリスクの理解の促し ポジショニングの配慮の促し 脱水予防の配慮の促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もありますよ。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。 過去に車イスから転落したことがある場合は、特に要注意です。 このかたの居室環境や夜間照明はどのようになっているのでしょう? 車椅子での長期座位保持のリスクを一度考えてみてください。 下肢のむくみやしびれ感への対策にポジショニングの資料を見るといいでしょう。 お茶の時間は脱水予防にもなりますので、疾患と合わせてin-out量を計算してケアに組み入れてください。
に向けたケアの促し(13) 認知症高齢者への倫理的配慮の促し(12) 認知症高齢者の安全を守るケアの促し(9)	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の 促し 長時間同一姿勢のリスクの理解の促し ポジショニングの配慮の促し 脱水予防の配慮の促し スタッフへの情報提供についての確認	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もあります。 。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。 過去に車イスから転落したことがある場合は、特に要注意です。 このかたの居室環境や夜間照明はどのようになっているのでしょう? 車椅子での長期座位保持のリスクを一度考えてみてください。 下肢のむくみやしびれ感への対策にポジショニングの資料を見るといいでしょう。 お茶の時間は脱水予防にもなりますので、疾患と合わせてin-out量を計算してケアに組み入れてください。 時計がないことを心配していることはスタッフに伝えましたか?
に向けたケアの促し (13) 認知症高齢者への倫理的配慮 の促し (12) 認知症高齢者の安全を守るケア の促し (9) ケアチームの一員としての行動 の促し (7)	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の 促し 長時間同一姿勢のリスクの理解の促し ポジショニングの配慮の促し 脱水予防の配慮の促し スタッフへの情報提供についての確認 スタッフ情報を活用したケアの促し スタッフのモデル行動からの学習の促し 視覚障害のある高齢者の生活への影響の	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もありますよ。 "妄想"とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。 過去に車イスから転落したことがある場合は、特に要注意です。 このかたの居室環境や夜間照明はどのようになっているのでしょう? 車椅子での長期座位保持のリスクを一度考えてみてください。 下肢のむくみやしびれ感への対策にポジショニングの資料を見るといいでしょう。 お茶の時間は脱水予防にもなりますので、疾患と合わせてin-out量を計算してケアに組み入れてください。 時計がないことを心配していることはスタッフに伝えましたか? スタッフからも情報を得ることで見えてくることは多々あると思います。
に向けたケアの促し(13) 認知症高齢者への倫理的配慮の促し(12) 認知症高齢者の安全を守るケアの促し(9)	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の 促し 長時間同一姿勢のリスクの理解の促し ポジショニングの配慮の促し 脱水予防の配慮の促し 脱水予防の配慮の促し スタッフへの情報提供についての確認 スタッフ情報を活用したケアの促し スタッフのモデル行動からの学習の促し 視覚障害のある高齢者の生活への影響の 理解の促し 失語のある高齢者に対するコミュニケーション	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もあります よ。 深表間とだけ判断せず、自分たち(ケア提供者)のケアを振り返り、改善することが重要です。 あざがあることについて本人から確認してみるのもいいと思います。 過去に車イスから転落したことがある場合は、特に要注意です。 このかたの居室環境や夜間照明はどのようになっているのでしょう? 車椅子での長期座位保持のリスクを一度考えてみてください。 下肢のむくみやしびれ感への対策にポジショニングの資料を見るといいでしょう。 お茶の時間は脱水予防にもなりますので、疾患と合わせでin-out量を計算してケアに組み入れてください。 時計がないことを心配していることはスタッフに伝えましたか? スタッフからも情報を得ることで見えてくることは多々あると思います。 介護士さんはどのように対応されていましたか? 視覚変化が生活行動に影響を来たしたり、その恐れはありますか? 右の脳梗塞であれば構語障害としての関わり方の工夫が必要かもしれま
に向けたケアの促し (13) 認知症高齢者への倫理的配慮 の促し (12) 認知症高齢者の安全を守るケア の促し (9) ケアチームの一員としての行動 の促し (7) コミュニケーション障害のある高齢者	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し 認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの促し 認知症高齢者への倫理的態度の確認 対象者自身からの情報収集の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解の促し と注意喚起 認知症高齢者への転倒防止方法の理解の 促し 長時間同一姿勢のリスクの理解の促し ポジショニングの配慮の促し 脱水予防の配慮の促し スタッフへの情報提供についての確認 スタッフ情報を活用したケアの促し スタッフのモデル行動からの学習の促し 視覚障害のある高齢者の生活への影響の 理解の促し	できていること、できないこと、しようとしていること、それぞれについてきちんと把握して関わることが看護の関わりとして大事だと思います。 落ち着かない徘徊の時間を楽しい散歩に変えていくという方法もあります よ。

カテゴリ(文脈単位数の小計)	サブカテゴリ	記述内容例	文単位
-	対象の背景の不足情報に対する確認	実際の排泄状況はどうだったのでしょう?	
	現象に対する原因探求への促し	何故そうしてしまうのか、食事量が不足しているのか、食事したことを忘 れてしまうのか、それ以外なのか考えてみてもいいでしょう。	
	専門用語の理解の促し	よく使われていますが、正式な言葉ではないので注意してください。	
	認知症の症状理解の促しと修正	カルテには書いてありましたが、中核症状とBPSDを混乱しないでくださいね。	
基礎学習や基本情報理解の促し (48)	学習体験による気づきの病棟実習での 活用の促し	いる。 病棟でも色々な計画を立てその方にあったブランとなるようチャレンジし てみて下さい。	
	既往疾患やデータに基づく観察の促し	この方の既往歴等から、どのようなことを注意しなければならないのか、 どの点を観察したのか、細かくアセスメントし記載すること。	T
	介護保険の理解の促し	この方たちを法的に守っているもの(制度、社会保障、法律)について、 介護保険と合わせて考えていきましょう。	
	認知症の周辺症状に対するケア方法 理解の促し	このような症状を少しでも緩和できるようにするにはどうすればいいで しょうか?	
	目的のあるケアへの促し	何を目指した援助なのでしょうか?	L
	ケアの評価の促し	ケア前後できちんと評価することが大切ですね。	╀
	ケアの具体性の促し	定期的にといっても目安を持って、どのようなタイミングで誘導すべきか 考えてみてもよいでしょう。	
適切なケア実践の促し	ケア実践の促し	生活背景を理解したところから、その方にふさわしい援助につなげてい けるとよいですね。	
(28)	ケアの適切性の促し	何故出来なかったのか・・・こちらが介助した方が良い場合もあります。	
	ケアの現実性の促し	話を聞いた後でそれでも"帰りたい""帰らせてくれ"と言われたらどうしますか?	
	ケアの個別性の促し	一般的にはこのように言われていますが、この入居者さんの場合はどうなのか、病棟実習と同じように一人の人間としてアセスメントしていってください。	
	短絡的な対象理解の修正	対象をとらえるときに常にそれは思い込みではないか、ということを考え ながら関わっていくことが大切です。	
認知症高齢者の全人的理解 の促し	認知症高齢者の言動の意味の理解 の促し	長らく自分の子供のように感じている人形なので触られたくない気持ちも 強いのかもしれませんね。	T
(24)	高齢者にとっての家族の意味の理解 の促し	ご家族の面会も大きな力になったと思います。	T
認知症高齢者の表現を助ける	認知症高齢者への予測に基づいた ケアの促し	もしかしたら、こういう問題が生じているかも・・・という予想をしながらフィ ジカルアセスメントをしていくとよいでしょう。	T
ケアの促し (21)	認知症高齢者が表現しにくい症状の 早期発見に向けた観察の促し	痛みの状況については注意深く見ていく必要があると思います。	Ι
	認知症高齢者へのコミュニケーション 方法の提案	不安な気持ちを聞くことも大切なのですが、他のことに気を向けることも 大切です。	I
	集団生活における個別性のある生活 確保の促し	その人に合わせて様々なレクリエーションの参加の仕方がありますね。	
	医療・福祉チームの連携理解の促し	何故ぶつかるのか他職種でアセスメントをしていくと良いですね。	╀
施設における対象者・看護師・	施設における看護師の役割理解の促し	トイレの時や入浴時は皮膚状態を観察していきます。	ļ
ケアの特徴理解の促し	施設における課題理解の促し	基本的な生活に必要な用具が不足しているということは大きな問題で す。	
(18)	入居者同士の交流促進の促し	認知症の方にとってなじみの関係を築くことはとても大切です。	ļ
	集団生活におけるトラブル調整理解 の促し	人との交流を望んでいるけど、行動に移せない方には、お互いを取り持 つ橋渡しも看護師の役割の一つですね。	
	集団全体に対する看護の視点理解 の促し	集団にどう働きかけるか検討する力も看護師に求められますね。	
認知症高齢者のもてる力の	対象者の強みを活かしたケアの促し	様々な活動の中でどこまでその方が出来るかを知って力を発揮する場 をつくることはとても大切ですね。	
発揮に向けたケアの促し (13)	認知症高齢者の自立度に配慮したケアの促し	できていること、できることをきちんと見極めて接していくことが必要という ことですね。	į
(10)	認知症高齢者の嗜好に配慮したケアの 促し	"リハビリ"という形でなくとも、シルバー体操やカラオケといった楽しみを 関連させれば、自ずと動くようにもなると思います。	
ケアチームの一員としての	スタッフへの情報提供についての確認	考えたアイデアは施設側にお伝えすることができましたか?	ļ
ティア A G	スタッフのモデル行動からの学習の促し	一つ一つの行為には意味があることに気づくといろいろ見えてくると思い ます。	l
(6)	スタッフ情報を活用したケアの促し	考えても答えが出ないこともあると思うので、スタッフに直接聞いて、そ の方の世界に少しでも近づけられると良いですね。	
認知症高齢者への倫理的	認知症高齢者への倫理的態度の確認	(リビングにベッドを移動していた入居者のケアに対して)ケアの場所も考慮しないといけないですね。	1
配慮の促し (5)	個人情報保護に向けた記録方法の訂正	イニシャルだと特定されてしまうので、一文字のみにしてください。	+
(6)	対象者自身からの情報収集の促し	ご本人に直接聞いてその方に近づけられると良いですね。 高齢者は褥瘡のリスクの高いかたも多いので、座位時の除圧も大切に	¥
羽知点言塾老の中人と中で	ポジショニングへの配慮への強化	なってきますね。	\downarrow
認知症高齢者の安全を守るケアの促し	脱水予防に向けた観察の促し 認知症高齢者の転倒リスクの理解	粘膜・皮膚の状態(乾燥)もありますね。 (歩行時ふらつき、見守りによる転倒への備えという記載に対して)看護	+
(5)	の促しと注意喚起 認知症高齢者への誤嚥リスクへの	としてのアセスメントが必要なのでしょう。	+
	注意喚起	万が一、誤嚥した時などの対処法も考えておく必要があります。	ļ
生活リズムを整えるケア (3)	生活リズムを整えるケア	レクリエーションが睡眠にも影響すれば、生活リズム全体の改善にもつ ながりますね。	L
加齢に伴う高齢者の心身の 特徴の理解の促し (2)	加齢に伴う高齢者の心身の特徴の 理解の促し	高齢者はニードが潜在的にあっても促しがないとそのニードをかなえる ような行動に結びつかない場合があるので、廃用症候群の予防のため にも"促し"が大切ですね。	

カテゴリ(文脈単位数の小計)	サブカテゴリ	記述内容例	文脈 単位数
認知症高齢者の表現を助けるケアに 対する承認 (16)	認知症高齢者へのコミュニケーション方法 の適切さに対する承認	コミュニケーションのとり方やかかわり方について学べた と思います。 利用者さんのニーズをどうとらえていくかが ポイントですね。	13
	認知症高齢者への予測に基づくケアに 対する承認	身体的観察は重要ですね。「~かもしれない」というある 程度の予測がないと変化や異常を見逃す恐れが出てき ます。	3
認知症高齢者のもてる力の発揮に 向けたケアに対する承認 (11)	認知症高齢者の自立度に配慮したケアに 対する承認	自立している部分は尊重しながら最低限の支援が出来 るようにかかわることの大切さがわかりましたね。	9
	認知症高齢者の嗜好に配慮したケアに 対する承認	持ち物へのこだわりは拡張自我を示すものですので、そ こにふれたことはいろいろプラス方面につながると思いま す。	2(1)
認知症高齢者の安全を守るケアに 対する承認	認知症高齢者の安全確保に向けたケアに 対する承認	高齢者特に認知症のあるかたの安全確保は看護の大き な課題ですね。	3
(4)	認知症高齢者の転倒リスクを踏まえたケア に対する承認	立位バランスに目を向けることは危険予知として大切な 考え方です。よい関わりができた場面です。	1
認知症高齢者の全人的理解に対する	総合的な対象理解に対する承認	2人の方の状況がよくまとめられていますね。	2
承認 (3)	認知症高齢者のサインの気づきに対する 承認	排泄のサインをよくキャッチできましたね。たいへんよい 関わりです。	1
施設の特徴を活かしたケアに対する 承認 (2)	入居者同士の交流促進に向けたケアに 対する承認	交流を促すようなかかわりは非常に重要だと思います	2
コミュニケーション障害のある高齢者 へのケア方法に対する承認 (2)	視覚障害のある高齢者へのケア方法に 対する承認	食事摂取方法に目を向けたことは視覚障害のある方へ の関わりとして大切なことです。基本をおさえつつ状況に 応じたケアができるといいですね。	1
	聴覚障害のある高齢者へのコミュニ ケーション方法に対する承認	Aさんが聴力が低く、大きな声でゆっくり話しかけることが 大切ということに、良く気づけましたね。	1
認知症高齢者への倫理的態度に 対する承認 (1)	認知症高齢者への倫理的態度に 対する承認	"認知症の方"ではなく、"一人の人間"として接していくという考えは、ケアに関係する者としてすごく大切なことだと思います。	1

文脈単位数の〈 〉内の数字は「o.k.」「good」と表現した〈承認〉コメント

表 5 実習 2 日目の〈承認〉コメントの内容 【文脈単位数 52 〈14〉】

カテゴリ(文脈単位数の小計)	サブカテゴリ	記述内容例	文脈 単位数
認知症高齢者のもてる力の 発揮に向けたケアに対する承認 (18)	対象者の強みを活かしたケアに対する 承認	入居者さんの強みを見つけ、それをケアに活かす方法も考える ことができています。	
	認知症高齢者への適切な食事援助 に対する承認	(献立を知らずに食べていた高齢者に説明をした場面の描写に 対して)食事を手助けする時のポイントが理解できましたね。	5(1)
	認知症高齢者へのレクリエーションの 効果理解に対する承認	(レクリエーションが脳の活性化に役立つとの記載に対して)非常に良い気づきです。	4(1)
(10)	認知症高齢者の自立度に配慮したケア に対する承認	対象のADLに応じた関わりができましたね。	2
	疼痛緩和のケアに対する承認	(手浴か、ホットタオルで手を温めて痛みが和らぐケアとの記載に対して)o.k.	1(1)
	認知症高齢者へのコミュニケーション 方法の適切さに対する承認	(入居者の話を聞いていくという記載に対して)どれだけその人 に"関心をもっている"というメッセージを伝えられるかが大切で すね。	8(3)
認知症高齢者の表現を助ける ケアに対する承認 (12)	認知症高齢者の細かな観察	(いつもの様子を把握し、少しでも変化がないかさりげない観察をするという記載に対して)とても良い視点です。"さりげない観察"good!	3(1)
	認知症高齢者への予測に基づくケア に対する承認	(今後状態が悪化するかもしれないのでとの記載に対して)ok.	1(1)
`*\n+\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\	個別性のあるケアに対する承認	個別性に対応した関わり方ですね。	3(1)
適切なケア実践に対する承認 (8)	ケアの実践化に対する承認	大切な機会がつくれてよかったですね!	3(1)
(0)	ケアの具体化に対する承認	様々なことを学べ、援助計画も具体的でわかりやすいです。	2
施設の特徴に合わせたケア	施設における看護の視点の理解 に対する承認	(褥瘡への対応、体内リズムを整える援助との記載に対して)看 護の視点から考えられ、必要なケアが見えています。	2
に対する承認 (5)	集団生活における個別性のある生活 確保に対する承認	(農業をしていた生活背景から手を使ったレクリエーションを選択・実施し笑顔が見られた場面の描写に対して)ok.	2〈2〉
(0)	集団全体に対する看護の視点に対する 承認	(周りを広くみて、全体に目を向けられるようにしていきたいとの 記載に対して)good!	1(1)
コミュニケーション障害のある 高齢者へのケア方法に対する承認 (4)	視覚障害のある高齢者に対するケア 方法に対する承認	(視覚障害のある高齢者がレクリエーションに参加できるよう状況を実況中継のように説明した場面の描写に対して)Hさんがグループのレクリエーションに参加しやすいよううまくサポートできていますね。	
	失語のある高齢者へのコミュニケー ション方法に対する承認	運動性失語がある方のコミュニケーションとしてとても良い気付きですよ。	1
学習姿勢に対する承認 (2)	現象に対する原因探求姿勢に対する 承認	"何故肩が痛いのか…"と考え、一つ一つ確認していくといったたいへん重要なところに気づけていると思います。	2
認知症高齢者の全人的理解に対する承認	認知症高齢者のサインへの気づき に対する承認	トイレに行きたいというサインに気づけましたね!	1
(2)	認知症高齢者の言動の意味の理解 に対する承認	(徘徊の意味を探って〜本人は仕事をするために入ってきているとの記載に対して)good!	1(1)
認知症高齢者の安全を守る ケアに対する承認 (1)	認知症高齢者の転倒リスクを踏まえた ケアに対する承認	(転倒の危険性があり、注意が必要との記載に対して)よいアセスメントだと思います。	1

文脈単位数の〈 〉内の数字は「o.k.」「good」と表現した〈承認〉コメント

カテゴリ(文脈単位数の小計)	サブカテゴリ	記述内容例	文脈 単位数
認知症高齢者の表現を助ける ケアに対する承認 (15)	認知症高齢者へのコミュニケーション 方法の適切さに対する承認	認知症の方はわからないことについて不安になるので、側にい て寄り添うことは安心感にもつながりよい援助になっていたと 思います。	15
認知症高齢者のもてる力の発揮 に向けたケアに対する承認 (15)	対象者の強みを活かしたケアに対する 承認	できることを見つけることがエンパワメントの第一歩になりますね。	5(2)
	認知症高齢者の自立度に配慮したケア に対する承認	その方の自立を促すような援助ができたように思います。	4
	認知症高齢者への適切な食事援助の 理解に対する承認	食事に関するケアにおいて把握すべき情報について、実際の 関わりから理解できましたね。	3
(10)	認知症高齢者の嗜好に配慮したケア に対する承認	その方の興味をひとつ探せたということですね、Good!	2(1)
	認知症高齢者へのレクリエーションの 効果理解に対する承認	施設における日中のアクティビティの意義についてよく分かりま したね。	1
	ケア評価の姿勢に対する承認	自分の関わりの振り返りがきちんと出来ています。	4
	個別性のあるケアに対する承認	入居者の特徴を捉え、細かい配慮もできていますね。	2
適切なケア実践に対する承認	ケアの実践化に対する承認	どこまで出来るか援助者側で決めつけず、安全を確保しなが らチャレンジすることは大切ですね。	2
(11)	目的のあるケアに対する承認	レクリエーションの目的について理解できましたね。	1
	適切なケアに対する承認	アセスメントした上でのケアができていますね。	1
	ケアの具体化に対する承認	自分自身が注意できることを具体的にしているのでわかりやすいですね。	1
施設の特徴に合わせたケア に対する承認	施設における看護の視点の理解 に対する承認	レクリエーションを看護の目で見るとこういう点に気づけるという ことが分かりましたね。	5
	集団生活における個別性のある生活 確保に対する承認	"貼り絵"はどちらかと言うと女性的なレクですが、指示する立場として参加することで男性も満足できるということがよくわかりますね。	3(1)
(11)	施設環境への配慮に対する承認	同じような部屋がたくさんあり、間違いやすいことについて良い気付きが出来ています。	2(1)
	集団生活におけるトラブル調整理解 に対する承認	よい橋渡し役になれましたね。	1
認知症高齢者の全人的理解 に対する承認	認知症高齢者の言動の意味の理解 に対する承認	通常の行動と結び付けてトイレが見当たらないことでの戸惑い に思い当たり、素晴らしい援助が出来ましたね!	5
(6)	対象の多様性の理解に対する承認	コミュニケーション障害がある人や内向的な性格の方等、様々いらっしゃるという気付きができましたね。	1
認知症高齢者の安全を守るケア に対する承認	認知症高齢者への転倒防止方法理解 に対する承認	(広い空間を確保してから歩行介助した場面の描写に対して) good!	2(1)
(3)	認知症高齢者の安全確保の必要性理解に対する承認	今行なっている危険回避をきちんと理解しています。	1
学習姿勢に対する承認 (2)	既往疾患やデータに基づく観察 に対する承認	(シャント音の観察に対して)o.k.	2〈2〉
コミュニケーション障害のある高齢者 へのケア方法に対する承認 (1)	視覚障害のある高齢者へのケア方法 に対する承認	(視覚以外の感覚刺激で楽しめるレクリエーションの工夫の記載について)きっと0さんもいつも以上に周囲の状況がわかって参加して楽しむことができたと思います。	1
生活リズムを整えるケアへの承認 (1)	生活リズムを整えるケアへの承認	(体内リズムを整えるためにという記載に対して)この考え方は 素晴らしい!	1
加齢に伴う高齢者の心身の特徴理解に 対する承認 (1)	加齢に伴う高齢者の心身の特徴理解 に対する承認	高齢者の特徴を心身両面から捉えることができましたね。	1

文脈単位数の〈 〉内の数字は「o.k.」「good」と表現した〈承認〉コメント